

部活動の活性化 ～魅力ある部活動とは～

宮崎県立日向工業高等学校

日野 譲士

1. はじめに

宮崎県高等学校体育連盟の調査研究委員会は、高体連会長指名 6 名及び県内 6 支部（県北支部、西都・児湯支部、宮崎・東諸支部、日南・串間支部、都城・北諸支部、西諸支部）から 1 名ずつの計 12 名で構成されている。調査研究委員会では、年 4 回の会議の中で全国高等学校体育連盟研究部の 3 つの分科会の内容（競技力の向上・健康と安全・部活動の活性化）について研究を進め、4 年に一度全国大会で発表を行っている。また、スポーツ賞表彰式や特別講演の運営などを行っている。

本委員会では平成 20 年度に「部活動の普及・活性化」をテーマに、経験の浅い運動部顧問へ向けたハンドブック「どんげすっと？部活動」を作成し、全国研究大会で研究発表を行った。また、平成 23 年度には「競技力の向上」をテーマとしてハンドボール競技の中高連携に関する実態調査を行い、同じく全国研究大会で発表を行った。平成 24 年度からは「健康・安全」をテーマに「部活動でケガや故障をしないための取り組み」について研究を行い、けがや故障の予防についての一助になるよう事例集『こんげすっと通信』を作成配布し、平成 27 年度の全国研究大会で発表を行い、優秀研究で表彰を受けることが出来た。平成 28 年度より、『部活動の活性化』をテーマに、県内高校の実態を調査しながら宮崎ならではの魅力ある部活動の在り方を探りながら研究を進めていった。

2. 主題設定の理由

中学校・高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ。）における運動部活動は、学校教育の一環として、スポーツに興味と関心を持つ同好の生徒の自主的・自発的な参加により、部活動顧問の教員をはじめとした関係者の取組や指導の下に運動やスポーツを行うものである。そして、その各学校の運動部活動の中で、多様な活動が行われた結果、我が国独自の発展を遂げることができた。また、平成 28 年度現在、本県の高等学校（全日制及び定時制・通信制）で 42% の生徒が運動部活動に加入し、その生徒の心身の成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たしていることが報告されている。しかしながら近年、部活動での体罰等をはじめ、部活動指導者の不足、休日の設定、施設・設備等、課題も山積していることが浮き彫りになっているのも事実である。（平成 25 年度 5 月 27 日 運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議より）

宮崎県では、過去にも「部活動の活性化」をテーマに様々な研究が行われてきたが、本研究においては本県の高等学校の部活動の実態を把握し、部活動の活性化とは何かということを深く掘り下げ、生徒の心身の成長と豊かな学校生活の実現に向けた本当の意味での活性化に向けて動き出す方策を導き出していくことを考え研究主題とした。

3. 研究の仮説

県内の運動部活動生、その保護者、部活動指導者に対しアンケート調査を実施し、それぞれが考える部活動の捉え方や課題の現状を分析し、実態を把握していく。このことにより、未来の宮崎県の運動部活動生一人ひとりが輝き、満足できる部活動の在り方を実現できるモデルケースを探り、宮崎ならではの魅力ある部活動を発信していくのではないかと考え、以下の 2 つの仮説をたてた。

仮説 1

「魅力ある部活動」とは何かということを探り、それを基にモデルケースの作成・実践・検証を行い、その結果をまとめたリーフレットを全県下の学校に配布することで部活動を活性化することができるのではないか。

仮説 2

「部活動の活性化」とは、勝利至上主義だけでなく、生徒・教員・保護者が同じ方向を向いて、魅力ある部活動の実現の為に合意形成を図っていけば活性化につながるのではないか。

4. 研究の方向性

(1) 平成 28 年度実施：生徒・保護者・教員に対するアンケート調査の実施

調査研究委員会のメンバーが所属する学校 12 校の生徒・教員・保護者を対象にアンケートによる意識調査を行い、「魅力ある部活動」とはどのような部活動かを探る。

(2) 平成 29 年度実施：「魅力ある部活動」のモデルケースを作成する。

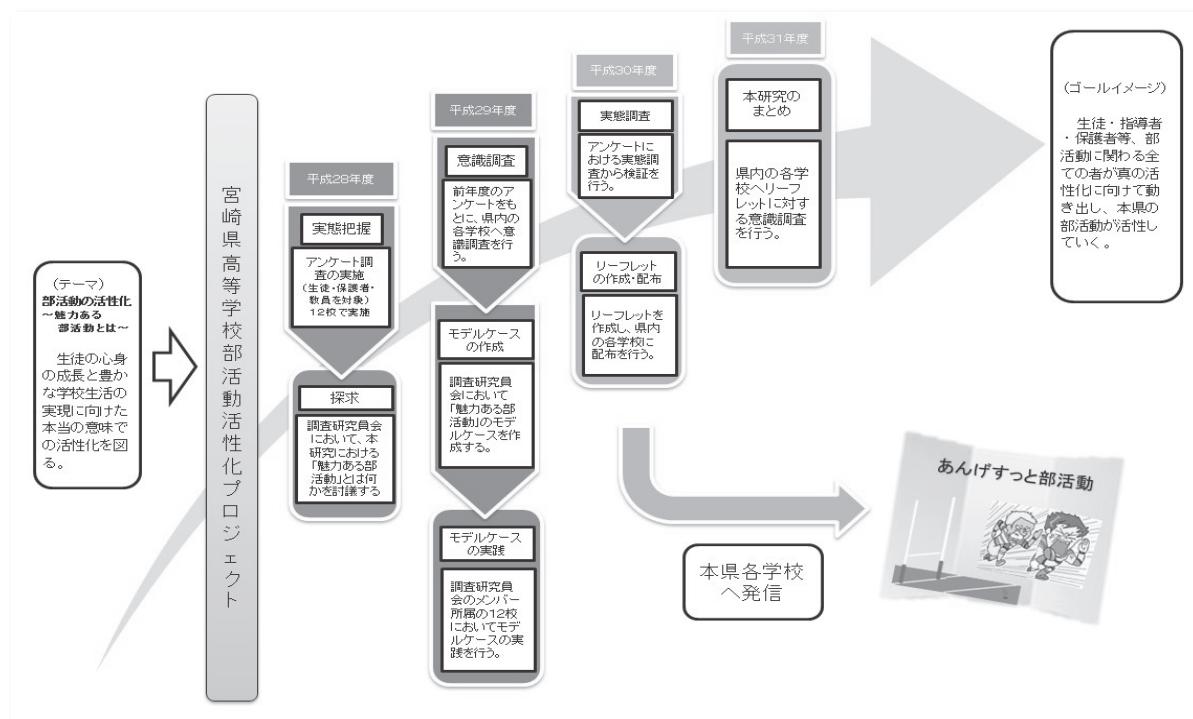
前年度のアンケート調査をもとに、県内の各学校へ意識調査を行い、「魅力ある部活動」のモデルケースを作成する。作成した「魅力ある部活動」のモデルケースを調査研究委員会のメンバーが所属する学校 12 校に実践してもらい、アンケートによる実態調査から検証を行う。

(3) 平成 30 年度実施：モデルケースの実践・リーフレットの作成・各学校へリーフレット配布

県内の各学校にアンケートによる実態調査を行う。その結果からリーフレットを作成し、各学校へ配布する。

(4) 令和元年度：意識調査・まとめ

意識調査を行い、その結果をもとに 4 年間を総括し、本研究のまとめを行う。



5. 研究概要

(1) アンケートによる意識調査（生徒・教員・保護者が対象）

「魅力ある部活動」とはどのような部活動であるか、調査研究委員会のメンバーが所属する学校 12 校を対象に無記名方式でアンケートを行った。(表 1) アンケートは、生徒・保護者・教員に対する共通アンケート、生徒・保護者・教員それぞれ内容が異なる記述式アンケートを実施した。

(表 1) 平成 28 年度「魅力ある部活動」に関するアンケートのサンプル件数

	生徒	保護者	教員
各学校合計	1,200名	1,200名	460名
回収合計	1,157名	896名	247名
回収率	96.4%	74.6%	53.6%

生徒・教員・保護者に対する共通アンケートおよびアンケート結果は下記の通りである。(文書1) (表2~5)

生徒・教員・保護者共通アンケート							
魅力ある部活動推進のためのアンケート							
1. 「魅力ある部活動」とは、どのような部活動だと考えますか。(複数回答可)							
1. 部員が多い 2. 活動が活発・活気がある 3. 実績がある(強い) 4. 地域から応援される 5. 楽しい 6. 主体的に生徒が活動している 7. 人間関係が良好である	8. ストレス発散ができる 9. 部活動だけでなく学校行事でも活躍する 10. 部活動生が学校を引っ張ることができる。 11. 部顧問と生徒との信頼関係が構築されている 12. 礼儀マナーが良い 13. 通路保証がなされている 14. その他の →						
2. 「魅力ある部活動」に期待することは何ですか。(複数回答可)							
1. 勝つこと 2. 人間力の育成 3. 健康の保持・増進 4. 楽しさ 5. 敬しさ 6. 生徒の自立 7. 良い人間関係の構築 8. 2020年東京オリンピック →	9. 部活動だけでなく学校行事でも活躍する 10. 部活動生が学校を引っ張ることができる。 11. 部顧問と生徒との信頼関係が構築されている 12. 礼儀マナーが良い 13. 通路保証 14. その他の →						
3. 満足度についてお聞きします。							
1) 現在、部活動に対して満足度はどのくらいですか。	<table border="1"><tr><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></table>	0	1	2	3	4	5
0	1	2	3	4	5		
2) あなたの所属する部活動は魅力がありますか。	<table border="1"><tr><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></table>	0	1	2	3	4	5
0	1	2	3	4	5		
(文書1)							

質問1 「魅力ある部活動」とは、どのような部活動だと考えますか。(複数回答可) (表2)

	生徒	保護者	教員
1位	活動が活発・活気がある	礼儀マナーが良い	礼儀マナーが良い
2位	礼儀マナーが良い	活動が活発・活気がある	活動が活発・活気がある
3位	楽しい	人間関係が良好である	主体的に生徒が活動している

質問2 「魅力ある部活動」に期待することは何ですか。(複数回答可) (表3)

	生徒	保護者	教員
1位	礼儀マナーが良い	人間力の育成	人間力の育成
2位	人間力の育成	礼儀マナーが良い	礼儀マナーが良い
3位	楽しさ	良好な人間関係の構築	生徒の自立

質問3 現在、部活動に対して満足度はどのくらいですか。 質問3 あなたの所属する部活動は魅力がありますか。

5段階評価	生徒	保護者	教員
大変満足	30%	20%	5%
満足	32%	36%	21%
やや満足	24%	29%	40%
やや不満	9%	11%	19%
不満	3%	3%	14%
大変不満	2%	1%	1%

(表4)

5段階評価	生徒	保護者	教員
とても魅力がある	38%	29%	12%
魅力がある	25%	33%	25%
やや魅力がある	24%	26%	36%
やや魅力がない	9%	9%	18%
魅力がない	2%	3%	8%
全く魅力がない	2%	0%	1%

(表5)

考察として、生徒の特徴としては、魅力ある部活動に「楽しさ」を求めている傾向があった。保護者の特徴としては、「人間関係」が上位に入っています、「いじめ」や「孤立」など保護者としての心配な部分がないようにとの願いが込められているのではないだろうか。教員の特徴としては、「主体的に生徒が活動している」や「生徒の自立」が上位に入っています、生徒の自発的な成長を部活動によって促していきたいのではないかと考える。また、表4~5の結果より生徒・保護者・教員ともに部活動に対して約60%が満足・魅力を感じていることが分かった。これから「やや満足」「やや魅力がある」と回答した意向を調査していくければ、「部活動の活性化」に繋がるのではないかと考える。

生徒・保護者・教員と内容が異なる記述式アンケートおよびアンケート結果は下記の通りである。(文書2~4)

「生徒向けの質問」 (文書2)	
1. なぜ今の部活動を選んだのですか?	
・その種目が好き ・小・中から続けていて ・家族の影響	・楽しそう ・漫画の影響 ・日本記録を目指すなど
2. 部活動をしていてよかったと思うことはありますか?	
・仲間が増えた ・礼儀やマナーが身についた ・人間関係を学んだ	・勝つ喜びを知った など
3. 練習の時間以外に部で取り組んでいることはありますか?	
・清掃活動 ・あいさつ運動 ・学校行事の準備や片付け	など
4. 部活動をより良くする、盛んにするためには何が必要だと思いますか? または、どんな取り組みをすればいいと思います?	
・日常生活をきちんとすると ・顧問との信頼関係 ・ミーティングを行なう	など
学校名【 】高校 部活動名【 】部 学年【 】年 性別【 男 · 女 】 保護者性別【 男 · 女 】	

「保護者アンケート」 (文書3) (魅力ある部活動の推進のためのアンケート)

- 部顧問に期待することは何ですか?
・人間力の育成
・禮儀指導
・部活動にちゃんと顔を出して欲しいなど
- 子どもの部活動に対して、保護者としてどのように関わっていきたいと考えていますか?
・大会や練習試合等の送迎
・大会の応援
など
- 子どもが部活動に参加して、よかったですと思える点と悪かったと思える点をお答えください。
・人間力の育成
・両立できない
・礼儀マナーの向上
・帰宅時間が遅いなど

学校名【 】高校 部活動名【 】部
学年【 】年 性別【 男 · 女 】 保護者性別【 男 · 女 】

「教員対象アンケート」 (文書4)

- あなたは現在、部活動を担当していますか。
はい · いいえ
 - 1ではいと答えた方にお聞きします。現在、担当している部活動は何ですか?
運動部 · 文化部
(同好会も含みます)
 - 2で運動部と答えた方にお聞きします。運動部活動の指導歴を教えてください。
() 年
 - 1ではいと答えた方にお聞きします。
魅力ある部活動にしたいと思いますか。
はい · いいえ · どちらも思わない
 - 4ではいと答えた方にお聞きします。
魅力ある部活動にしたいと思いますか。
はい · いいえ · どちらも思わない
 - 5ではいと答えた方にお聞きします。
魅力ある部活動にする為に、日々の活動の中で、現在指導者として取り組んでいます。
これが、差し支えの程度にどのようなことを実践しているかをお答えください。
・礼儀指導の徹底
・コーチライセンスの取得
・部活動通信の配布
など
 - 全員にお聞きします。
魅力ある部活動にするためには、どのような取り組みが大事だと考えますか。
(複数回答可)
・部員の確保と創設
・技術だけではなく生活指導
・環境づくり(活動場所の確保)
・生徒の能力に合わせた専門的な技術指導
・保護者会や地域との連携
・活動時間の充実
・専門的・専門的な信頼関係を作る
・自立した生徒づくり
など
- | | |
|--|----------------------|
| 学校名【 】高校 部活動名【 】部
学年【 】年 性別【 男 · 女 】 保護者性別【 男 · 女 】 | 教職員年数【 】年 現在経験年数【 】年 |
|--|----------------------|

これらの結果から共通して言えることは、生徒・保護者・教員とともに、部活動に対して練習だけではなく、あいさつや礼儀指導など普段の生活態度も大切だと考えているということである。「魅力ある部活動」とは、生徒・保護者・教員の思いが一致して、同じ方向を向いて活動していくことが大切であると実感することができた。

(2) 「魅力ある部活動」のモデルケース作成

前回実施したアンケートで分かった事をさらに掘り下げ、新たに追求していきたい事項も含めて意識調査を行った。この意識調査では宮崎県 51 校、全ての高等学校（全日制）を対象に行った。（表 6）

（表 6）

平成 29 年度「魅力ある部活動」に関するアンケートのサンプル件数

	生徒	保護者	教員
各 学 校 合 計	2,100 名	2,100 名	1,000 名
回 収 合 計	2,012 名	1,864 名	598 名
回 収 率	95.8%	88.7%	59.8%

生徒・教員・保護者に対するアンケート項目およびアンケート結果は以下の通りである。（文書 5～7）

（文書 5）

（生徒向けアンケート）

（1）活発・活気のある部活動にするためにどのような取り組みが必要だと思いますか。
最もあてはまるものを 1つ答えてください。

1. 部活動の確保 2. 提示板の利用 3. 休み・休養
4. 礼儀・あいさつ 5. 部活動生集会 6. 意見を出し合う（コミュニケーション）
7. 目標設定 8. 施設・設備の充実 9. 結果を残す
10. 連携（生徒・保護者・指導者）
11. その他（ ）

（2）礼儀・マナーをよくするためにどのような取組が必要だと思いますか。
最もあてはまるものを 1つ答えてください。

1. 朝の清掃活動 2. ボランティア活動 3. あいさつ運動
4. 学校生活のルールを守る 5. 上下関係を意識する 6. 地域交流
7. 学校への貢献
8. その他（ ）

（3）部活動で楽しさを感じる場面はどのような時ですか。
最もあてはまるものを 1つ答えてください。

1. 勝ったとき 2. 自分の成長を感じたとき
3. 仲間とのコミュニケーションがとれたとき
4. 自主的な活動 5. 困難を乗り越えたとき
6. その他（ ）

＜アンケート結果＞

質問 1 「礼儀やあいさつ」が全体の 30%、次いで「休み・休養」「目標設定」が多かった。

質問 2 「学校生活のルールを守る」が全体の 40% を超えた。また、「上下関係を意識する」「あいさつ運動」の意見も多く、礼儀・マナー向上に有効な手段であると考えていることが分かった。

質問 3 「自分の成長を感じたとき」が全体の 40% を超えた。また、「仲間とのコミュニケーションがとれたとき」も 3 番目に多く回答があり、勝つことだけが楽しいと考えているわけではないことが分かった。

（文書 6）

（保護者向けアンケート）

①何をもって礼儀・マナーが良いといえますか？（ひとつ選択）

（1）挨拶がしっかりしている （2）服装面がよい （3）身なりがよい
（4）言葉遣いがよい （5）時間を作れる （6）整理・整頓

②人間関係が良好な部とはどのような部活動を考えますか？（ひとつ選択）

（1）上下関係がない （2）適度な上下関係がある （3）厳しい上下関係がある
（4）自分の意見を言いやすい （5）部活動以外での親交が深い

③活発・活気のある部活動とはどのようなものだと考えますか？（ひとつ選択）

（1）活気がある （2）声が良く出る （3）指導者に情熱がある
（4）保護者会が活発 （5）練習量が豊富 （6）練習の質が高い
（7）競技成績が良い （8）地域との連携がある

＜アンケート結果＞

質問 1 「挨拶がしっかりしている」が 70% を超えた。「言葉遣いがよい」「時間を守れる」も少數であるが回答あり。

質問 2 「適度な上下関係がある」が 50% を超えた。生徒の回答とも重複する部分がある。

質問 3 「活気がある」「声が良く出る」の回答が多く、練習の雰囲気から見られることを 1 番に求めていることが分かる。

（文書 7）

（教員向けアンケート）

1 礼儀マナーを良くするための取り組みをしていますか。
「はい」と答えた方にお聞きします。該当する項目 3つまで回答して下さい。

①朝の挨拶運動 ②学校行事の参加 ③礼儀の日常指導 ④清掃活動 ⑤立腰指導
⑥ボランティア活動 ⑦小中高合同練習会 ⑧その他

2 活発・活気のある部活動にするための取り組みをしていますか。
「はい」と答えた方にお聞きします。該当する項目 3つまで回答して下さい。

①部員の確保 ②練習内容の工夫 ③選抜・練習試合 ④環境整備 ⑤後援会との連携
⑥ボランティア活動 ⑦小中高合同練習会 ⑧その他

3 生徒が主体的に活動するための取り組みをしていますか。
「はい」と答えた方にお聞きします。該当する項目 3つまで回答して下さい。

①主体的なミーティング ②キャブテン集会（リーダー研修会）③生徒による練習計画の作成
④役割を明確にする ⑤定期的な休養 ⑥宿泊研修 ⑦小中高合同練習会 ⑧その他

4 人間力を育成するための取り組みをしていますか。
「はい」と答えた方にお聞きします。該当する項目 3つまで回答して下さい。

①主体的なミーティング ②キャブテン集会（リーダー研修会）③生徒による練習計画の作成
④文武両道 ⑤ボランティア活動 ⑥小中高合同練習会 ⑦その他

＜アンケート結果＞

質問 1 「礼儀の日常指導」が 40% を超えた。「清掃活動」「遠征などで強豪校を見せる」などの回答も多く「他に学ぶ」機会も有効であると考えていることが分かった。

質問 2 「練習内容の工夫」「遠征・練習試合」「環境整備」の順に回答が多かった。

質問 3 「役割を明確にする」「主体的なミーティング」「定期的な休養」の回答が多かった。

質問 4 「文武両道」が 30% を超えた。また、「生徒による練習計画の作成」の回答も多く、生徒の自主性や主体性などが人間力の育成に繋がると考えていることが分かった。

アンケートの結果から、つぎのような考えをもとに「生徒」・「保護者」・「教員」が部活動を展開していくべき、「魅力ある部活動」が実践できるのではないかと考えた。

【生徒】 充実した活動や自分自身の成長を実感できる部活動

【教員】 生徒の主体的な活動が見られる部活動

【保護者】 競技成績の向上だけでなく社会性を習得できる部活動

上記の分析結果をもとに「魅力ある部活動」のモデルケースを調査研究委員会で以下のように作成した。作成にあたっては「生徒・教員・保護者が同じ方向を向いて、魅力ある部活動を展開していくべき活性化するのではないか」という研究仮説2を実証すべく、かなり高い意識レベルでの「モデルケース」を作成した。生徒・教員・保護者が少しでもこのモデルケースに基づいた活動を展開していくために、「自分自身を成長させる」ための活動内容や「主体的な活動を期待する」場面、「保護者が身に付けてほしい社会性」の内容などをキーワード化した。今後の研究を進めていく上でも

重要なモデルケースになるために、ワンシートでわかりやすく見やすいものを作成することができた。(図1)

また、魅力ある部活動の「モデルケース」の実践・検証を行うために、モデルケースからのキーワードを8項目策定した。項目の中には実践しやすく当たり前の項目から、実践レベルの高い項目までを準備し、自分たちの部活動を振り返ってみることや新たに挑戦できること等を考えて、幅広く設定した。(図2)

1 挨拶・礼儀・マナー	2 良好的な人間関係	3 ルール・時間を守る意識	4 部活メニューの作成	5 部活動内の役割	6 学校生活	7 基本的生活習慣	8 コミュニケーション能力
-------------	------------	---------------	-------------	-----------	--------	-----------	---------------

(図2)

(3)モデルケースおよびチェックシートの実践および事後評価のアンケート実施

宮崎県51校、全ての高等学校（全日制）運動部活動の2～4部活動を対象に、生徒・保護者・教員によるモデルケースおよびチェックシートを実践していただいた。事後評価のアンケートおよびアンケート集約は以下の通りである。（文書8）

1. 挨拶・礼儀・マナー

- (1) 挨拶・礼儀・マナーに取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) 状況、場所、相手に応じた礼節が実践できた（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

2. 良好的な人間関係

- (1) 良好的な人間関係に取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) 良好的な人間関係を構築できた（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

3. ルール・時間を守る意識

- (1) ルール・時間を守る意識に取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) 規範意識を高めることができた（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

4. 部活メニューの作成

- (1) 部活メニューの作成に取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) 主体的に練習に取り組むようになった（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

5. 部活動内の役割

- (1) 部活動内の役割に取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) 責任感をもって一人一人が役割を担うことができた（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

6. 学校生活

- (1) 学校生活に取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) あらゆる場面で遵守実践することができた（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

7. 基本的生活習慣

- (1) 基本的生活習慣に取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) 自己管理・スケジュール管理ができた（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

8. コミュニケーション能力

- (1) コミュニケーション能力に取り組めた（1：はい・2：いいえ）
- (2) 他者の意見を尊重し、自己の考えを表現できた（1：できた・2：わりとできた・3：できなかった）
- (3) どの内容に取り組みましたか（選択3つ・複数回答あり）
- (4) 取り組んだことによって具体的な変化があれば書いて下さい。

9. この取り組みを行うことで部活動が活性化したと思いますか（1：はい・2：いいえ）

【アンケート集約データ】 ※各学校合計（51校）：生徒1,376名、教員269名、保護者816名

(表 7)

件数および割合		生徒						教員						保護者									
項目/解答	回答件数	1,376				回答件数	269				回答件数	816											
		1	2	3	未回答		1	2	3	未回答		1	2	3	未回答								
1. 挨拶・礼儀・マナー	(1) 1,342 97.5%	34	2.5%	—	—	0	0.0%	250	92.9%	19	7.1%	—	—	0	0.0%	722	88.5%	94	11.5%	—	—	0	0.0%
	(2) 849 61.7%	484	35.2%	9	0.7%	34	2.5%	127	47.2%	122	45.4%	0	0.0%	20	7.4%	326	40.2%	383	46.9%	53	6.5%	52	6.4%
	(3) 753 36.5%	587	28.5%	721	35.0%	—	—	181	45.5%	143	35.9%	74	18.6%	—	—	343	41.4%	298	35.9%	188	22.7%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
2. 良好人間関係	(1) 1,293 94.0%	70	5.1%	—	—	13	0.9%	241	89.6%	27	10.0%	—	—	1	0.4%	685	83.9%	107	13.1%	—	—	24	2.9%
	(2) 805 58.5%	488	35.5%	6	0.4%	77	5.6%	115	42.8%	122	45.4%	5	1.9%	27	10.0%	351	43.0%	329	40.3%	47	5.8%	89	10.9%
	(3) 563 35.3%	756	47.4%	275	17.3%	—	—	127	35.5%	121	33.8%	110	30.7%	—	—	359	41.2%	309	35.5%	203	23.3%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
3. ルール・時間を守る意識	(1) 1,205 87.6%	100	7.3%	—	—	71	5.2%	243	90.3%	17	6.3%	—	—	9	3.3%	644	78.9%	105	12.9%	—	—	67	8.2%
	(2) 751 54.6%	430	31.3%	17	1.2%	178	12.9%	123	45.7%	116	43.1%	6	2.2%	24	8.9%	314	38.5%	322	39.5%	54	6.6%	126	15.4%
	(3) 935 61.9%	396	26.2%	180	11.9%	—	—	146	38.2%	133	34.8%	103	27.0%	—	—	236	31.2%	293	38.8%	227	30.0%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
4. 部活メニューの作成	(1) 728 52.9%	560	40.7%	—	—	88	6.4%	160	59.5%	101	37.5%	—	—	8	3.0%	412	50.5%	304	37.3%	—	—	100	12.3%
	(2) 392 28.5%	356	25.9%	22	1.6%	606	44.0%	70	26.0%	97	36.1%	11	4.1%	91	33.8%	265	32.5%	165	20.2%	62	7.6%	324	39.7%
	(3) 566 59.5%	267	28.0%	119	12.5%	—	—	137	43.9%	124	39.7%	51	16.3%	—	—	255	43.8%	225	38.7%	102	17.5%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
5. 部活動内での役割	(1) 1,147 83.4%	140	10.2%	—	—	89	6.5%	205	76.2%	57	21.2%	—	—	7	2.6%	554	67.9%	173	21.2%	—	—	89	10.9%
	(2) 690 50.1%	474	34.4%	18	1.3%	194	14.1%	96	35.7%	108	40.1%	10	3.7%	55	20.4%	262	32.1%	302	37.0%	59	7.2%	193	23.7%
	(3) 571 34.0%	741	44.1%	368	21.9%	—	—	114	38.0%	111	37.0%	75	25.0%	—	—	238	35.5%	276	41.2%	156	23.3%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
6. 学校生活	(1) 1,202 87.4%	81	5.9%	—	—	93	6.8%	213	79.2%	49	18.2%	—	—	7	2.6%	608	74.5%	110	13.5%	—	—	98	12.0%
	(2) 602 43.8%	565	41.1%	35	2.5%	174	12.6%	83	30.9%	129	48.0%	6	2.2%	51	19.0%	257	31.5%	320	39.2%	55	6.7%	184	22.5%
	(3) 883 50.0%	617	35.0%	265	15.0%	—	—	163	41.4%	125	31.7%	106	26.9%	—	—	302	41.1%	276	37.6%	156	21.3%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
7. 基本的生活習慣	(1) 1,147 83.4%	145	10.5%	—	—	84	6.1%	231	85.9%	26	9.7%	—	—	12	4.5%	656	80.4%	101	12.4%	—	—	59	7.2%
	(2) 676 49.1%	439	31.9%	23	1.7%	238	17.3%	118	43.9%	113	42.0%	3	1.1%	35	13.0%	285	34.9%	350	42.9%	61	7.5%	120	14.7%
	(3) 282 20.3%	288	20.8%	817	58.9%	—	—	162	42.4%	94	24.6%	126	33.0%	—	—	255	29.8%	249	29.1%	353	41.2%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
8. コミュニケーション能力	(1) 1,184 86.0%	113	8.2%	—	—	79	5.7%	244	90.7%	20	7.4%	—	—	5	1.9%	645	79.0%	101	12.4%	—	—	70	8.6%
	(2) 657 47.7%	511	37.1%	35	2.5%	173	12.6%	119	44.2%	126	46.8%	2	0.7%	22	8.2%	280	34.3%	350	42.9%	61	7.5%	125	15.3%
	(3) 559 35.3%	225	14.2%	798	50.4%	—	—	183	45.2%	113	27.9%	109	26.9%	—	—	351	38.9%	336	37.2%	216	23.9%	—	—
	(4)	枠外に記載																					
9. 部活動が活性化したか	(1) 1,159 84.2%	137	10.0%	—	—	80	5.8%	215	79.9%	41	15.2%	—	—	13	4.8%	640	78.4%	127	15.6%	—	—	49	6.0%
	(2)	枠外に記載																					

個々の分析結果については、資料が膨大であるため、宮崎県高体連 HP をご覧ください。最終的に「部活動が活性化したか」という項目について、「はい」の回答が多く、チェックシートを実施して、生徒・保護者・教員が同じ方向を向いて活動していくれば、部活動が活性化していくという仮説 2 は立証できたのではないかと考えられる。これらをもとに「リーフレット」を作成し、9 月に各学校に配布した。それらの意識調査を実施し、仮説 1 の立証と研究のまとめを行っていきたい。成果がまだ出ていないため、結果については本研究発表大会時に発表の中で報告する予定である。

6. まとめ

今回、「部活動の活性化」をテーマに4年間研究を進めてきた。いわゆるブラック部活動問題や部活動の休養日の適切な設定などが話題になるなかで、「部活動の活性化」の研究に対して疑問に思うこともあった。しかし、調査研究委員在籍の学校への意識調査からはじまり、県内51校の学校に対してのアンケートの回答をみていくなかで、生徒・教員・保護者の率直な気持ちや部活動に対しての熱い思いが伝わり、研究メンバーの中にも各学校の部活動に対して、何かしらのデータ還元や手助けができるのではないかという考えが明確になってきた。それだけでも研究の成果といえるのではないか。

また、今年度は南部九州インターハイが宮崎県でも行われ、改めてスポーツの良さ、部活動の良さや生徒・教員・保護者が同じ方向を向いて活動してきた全国大会での様子などを目の当たりにした本県の生徒・教員・保護者も多くいたと思われる。

今後は、調査研究委員会が作成したリーフレットをもとにして、全県下の部活動に参加する生徒・教員・保護者が同じ方向を向いて活動を展開し、モデルケースを目標にした活動やチェックシートを活用した部活動運営などを実践していくことを期待したい。

參考資料

「宮崎県高等学校体育連盟ホームページ」 <http://www.miyanaki-koutairen.com/> 『調査研究委員会』